



山形大学  
Yamagata University



## 山形大学

# 「低学年向け中小企業インターンシップ (プレ・インターンシップ)」の概要

※授業名「フィールドワーク 山形の企業の魅力 (プレインターンシップ)」



授業担当 山形大学 学術研究院 (学士課程基盤教育機構)  
准教授 松坂 暢浩、山本 美奈子

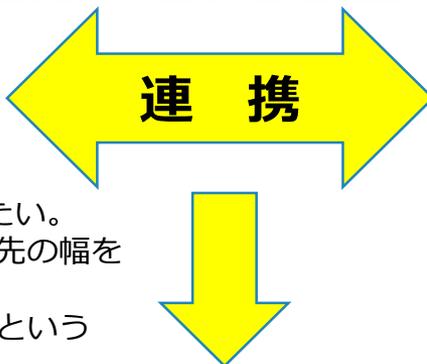
e-mail n-matsuzaka@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
キャリアサポートセンターHP <http://www.yamagata-u.ac.jp/career/>

# 本資料の概要

---

1. 本授業の概要（連携の背景と内容）
2. 本授業の流れ（スケジュール）
3. 本授業の履修者数および受入企業の推移
4. 本授業の3つの特徴
5. 本授業の到達目標と評価方法
6. 履修者および受入企業のアンケート結果

# 本授業の概要（連携の背景と内容）



## 課題

- ・3年次のインターシップ参加を増やしたい。
- ・山形県で就職を考えている学生の進路先の幅を公務員や銀行以外にも広げてほしい。
- ・山形県出身者以外にも、山形県で働くという選択枠を持ってほしい。

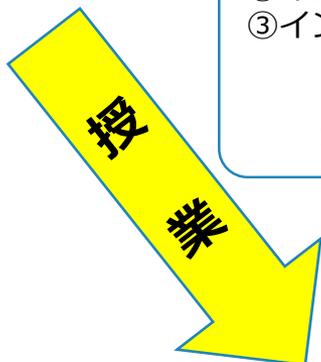
## 課題

- ・大学生に県内の中小企業で働く魅力を知ってほしい。（ネガティブな中小企業のイメージを変えたい）
- ・地域を担う若者の育成に協力したい。
- ・将来を担う幹部候補として大学生を採用する上でも大学生と接点がほしい。
- ・社員の人材育成や職場の活性化を図りたい。

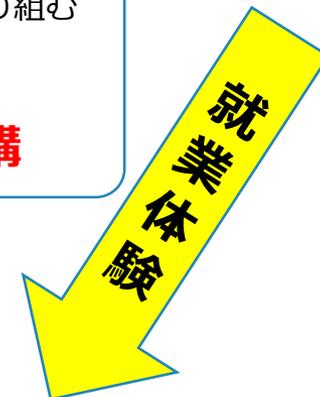
## 両者の課題解決に向けて

- ①インターンシップを通して、学生と中小企業の相互理解の場を早期から提供する
- ②インターンシップを通して、地域を担う若者の育成に大学と中小企業と一緒に取り組む
- ③インターンシップを通して、中小企業の人材育成や職場の活性化に繋げる

**→山形大学と山形県中小企業家同友会が連携し、  
共同で行う低学年向けインターンシップの授業を開講**



学生の事前・事後  
指導を行う



短期インターンシップ  
(3日間) の受入れ

# 本授業の流れ（授業スケジュール）

## 事前指導

4月～7月の期間で  
月2回（隔週）実施

ビジネスマナー講座、  
応募書類作成、同友会  
による中小企業研究会  
（講演）

## インターシップ実習

8月～9月の期間中に  
実習（3日間）を実施

座学（主に社長による講話等）  
会社・工場見学  
現場での実習（業務補助や  
営業同行等）

## 事後指導

9月下旬に実施

受入企業の担当者を  
招いての振り返りと  
成果報告会の開催

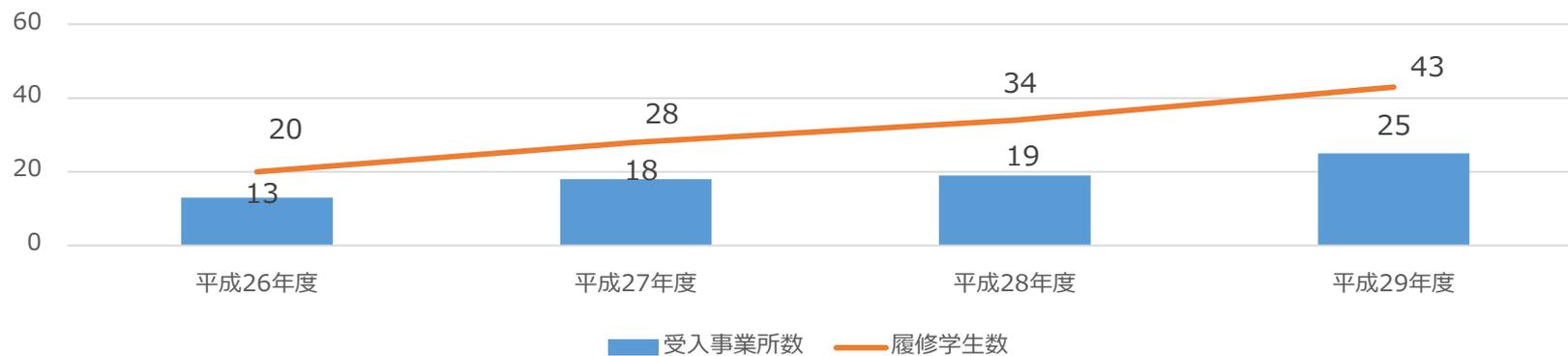
【参考】受入企業の成果報告会参加率9割



授業内の連絡・情報共有・課題提出はweb上で行う

# 履修者数および受入事業所数

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
履修学生数		20	28	34	43
所属	人文社会科学部（人文学部）	9	5	9	2
	理学部	2	3	3	2
	医学部	0	0	0	5
	工学部	2	5	5	23
	農学部	4	11	1	11
	地域教育文化学部	3	4	16	0
性別	男性	9	18	11	27
	女性	11	10	23	16
文理	文系	12	9	25	2
	理系	8	19	9	41
出身	山形県出身者	6	5	12	14
	山形県外出身者	14	23	22	29
受入事業所数		13	18	19	25



# 本授業の3つの特徴

## ① 1年生を対象に2年次以降の中長期インターンシップ参加へのプレ体験（お試し版）と位置付け

→そのため期間を3日間の短期としている。学生にも受入企業にも負担が少ない。

## ② 受入企業を地域の中小企業（山形県中小企業家同友会）に限定

→中小企業のインターンシップは、学生のキャリア教育上きわめて有用であるとする提言（大田,2005）がある。そのため、人材育成に理解と関心が高く、想いをもって地域でビジネスを行っている経営者が多く加盟しており、本学と平成22年より連携協力協定を結んでいる山形県中小企業家同友会加盟企業に事務局を通して依頼している。

## ③ 学生と受入企業のマッチングは、希望を取らずランダムに実施

→業界や仕事に対する視野を広げる観点から、学生の希望は取らず、担当教員が学生の自宅から通勤しやすい企業をピックアップしマッチングを行っている。

# 本授業の到達目標と評価方法

---

## 1. 到達目標

**インターンシップ体験を踏まえて、働くことはどのようなことかを説明できる。**



## 2. 評価基準

**事前学習の取組み、インターンシップに参加し、参加後の成果報告を踏まえて総合的に評価する。**

## 3. 評価方法

- 1) 「事前レポート」（履歴書、志望理由書等）（25%）
- 2) 「インターンシップ実習日誌」（25%）
- 3) 成果報告会での発表（30%）
- 4) 受入企業の評価（20%）



# 昨年の事前学習風景（写真）



先輩の体験報告①



先輩の体験報告②



個人・グループワーク（履歴書・志望理由書の作成）



中小企業研究会（受入先企業の講演）

※個人のプライバシーに配慮し、一部写真を加工しています。

# 昨年のインターンシップ実習風景（写真）



※個人のプライバシーに配慮し、一部写真を加工しています。

# 昨年の事後学習（成果報告会）風景（写真）



※個人のプライバシーに配慮し、一部写真を加工しています。

## 履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

2017年の履修者に対して、授業終了後ウェブサイトからのアンケートを実施。  
全員から回答を得た（有効回答率は100%）

性別	回答数	割合 (%)
男性	27	62.8
女性	16	37.2

文理	回答数	割合 (%)
文系	2	4.7
理系	41	95.3

学部	回答数	割合 (%)
人文社会科学部	2	4.7
医学部	5	11.6
理学部	2	4.7
工学部	23	53.5
農学部	11	25.6

出身地	回答数	割合 (%)
北海道	4	9.3
秋田県	2	4.7
岩手県	1	2.3
宮城県	3	7.0
福島県	1	2.3
山形県	14	32.6
新潟県	3	7.0
富山県	1	2.3
栃木県	3	7.0
群馬県	1	2.3
茨城県	2	4.7
東京都	1	2.3
千葉県	1	2.3
愛知県	2	4.7
静岡県	1	2.3
三重県	1	2.3
海外	2	4.7

## 履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

## Qインターンシップに参加しようと考えた理由 (抜粋)

- 他の授業に比べ、将来に役立つと考えたからです。また、実際に社会で働いている人とお話し、地元就職を視野に入れているので、地元企業について知りたいからです。
- 時間と心に余裕がある一年生のうちにインターンシップに行くことができ、一年生のうちから社会に必要な礼儀が学べると思ったからです。シラバスに載っていた履歴書の書き方を学ぶという点に興味を持ちました。
- 今の自分が持っているスキルがどの程度社会に通用するのか知りたかったのと、1年生のうちに、インターンシップを経験しておくことによって皆より1歩リード出来ると思ったからである。
- 今後必要になるビジネスマナーを学ぶことができると考えたからです。そして実際に企業で働く人と触れ合うことが、よい経験になると思ったからです。
- 働くことはどういうものなのかを知るのに一番良い方法は実際に働いてみることだと思ったからです。低学年のうちからインターンシップに参加できる機会は中々無いと思ったのでこの授業に参加しました。
- 私がインターンシップに参加しようと考えた理由は、先生の説明やシラバスを読んで、この授業で山形の中小企業の実態が理解できると考えたからです。私は山形県出身なので、県内で就職することも視野に入れています。そのうえで県内の企業のことを知る機会が欲しいと考えました。
- 私は将来についての明確な目標が固まっていなかったため、将来について考える際に役立つような情報を少しでも多く増やせるようにと思い、参加しようと思いました。
- 私は、自分とは関係ない職業に行けることにとても魅力を感じて受講しました。自分の知らない世界にはいろんな発見がまだあると思うからです。それと、地元の愛媛の企業はこれまでの学生生活で行ったことがあり、山形と愛媛では何か違うことはあるのか調べてみようと思い、参加しようと思いました。
- 中小企業の魅力に肌で触れることができると考えたからです。また、普段は社会人の方と接する機会がないため、何気ない会話や仕事から多くのことを学べると考えたからです。叱られたり褒められたりする中で、自己の成長につなげたいと考えました。

## 履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

Q.本授業を受講し、全体として満足しているか？

項目	回答数	割合 (%)
大変満足している	34	79.1
満足している	8	18.6
どちらともいえない	1	2.3

満足度

97.7%

大変満足している、やや満足している の合計

## コメント (抜粋)

- 今回のインターンシップでは、初めての経験ばかりで3日間毎日がとても新鮮で仕事の大変さや働くことのやりがいを知ることができ、自分に足りないことを見つけ、将来についてもっと考えていかなければならないと感ずることができました。
- ただ、礼儀を学ぶだけでなく、おもてなしをすることは、相手に幸せを与えるだけでなく、自分にとっても生きがいと幸せを感じることができるということを学びました。
- インターンシップ中に社員さんから仕事の在り方について教えていただき、仕事は目的ではなく、手段であることを理解した。
- 「学び」が社会に出ても重要であること。「学び」自体がゴールではなく、それをどう自分の成長に結びつけていくかが重要だという事を学んだ。

## 履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

Q. インターンシップ参加前に立てた目標は達成できたか？

項目	回答数	割合 (%)
かなり達成できた	12	27.9
やや達成できた	26	60.5
どちらともいえない	4	9.3
あまり達成できなかった	1	2.3

達成度

88.4%

かなり達成できた、やや達成できたの合計

## コメント (抜粋)

- 参加前はマナーや社会人としての行動や、仕事について学びたいという目標を立てたが、インターンシップを通し、社会人としてのマナーや働くことについてだけでなく、人生を送る上での大切さなど、自分の学びたかったこと以上のことを学ぶことが出来た。
- 参加前に中小企業のイメージの明確化という目標を立て、インターンシップ中に中小企業の雰囲気を感じ取り、自分なりに中小企業のイメージを明確にできたから。
- インターンシップ参加前に、働くとはどのようなものかを実際に体験し学びたいという目標を立てていたのですが、実習の中で工事現場や企業への営業に同行させていただいて、職人技を間近でみて凄さを実感したり、仕事をする中での人との関わり出会いの大切さを知ることができ、よい体験と学びが出来たと感じている。

## 履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

Q.インターシップを体験し、自分にとっての「働く」理由が説明できるようになったか？

項目	回答数	割合 (%)
かなりできている	7	16.2
ややできている	27	62.8
どちらともいえない	6	14.0
あまりできていない	3	7.0

働く理由  
の説明

79.0%

かなりできている、ややできている の合計

## コメント (抜粋)

- 私にとって働くとは、人生の大部分であり、自分を強くするものです。働く期間は学生の期間より遙かに長く、その中でさまざまな成功や失敗をし、それを通して自分を成長させ、自分を強くさせることができると思ったからです。
- 私にとって「働く」とは、“自分の人生をより良くしてくれるもの”であると思う。今回のインターンシップで普段経験できない様々なことをさせてもらい、その中でやりがいと達成感を感じることができた。生活のために働くのは当たり前のことではあるが、それだけでなく仕事の中で感じたやりがいや達成感、また経験したことや得たものが自分の人生をより良いものにしてくれると感じたから。
- 私にとって働くとはお金を稼ぐことだけでなく、自分自身を磨くことだと思いました。

## 履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

Q. 中小企業でインターンシップを経験したことで、中小企業のイメージが変化したか？

項目	回答数	割合 (%)
かなり変化した	25	58.1
やや変化した	13	30.2
どちらともいえない	1	2.3
あまり変化していない	4	9.3

中小企業の  
イメージ変化

88.3%

かなり変化した、やや変化した の合計

## コメント (抜粋)

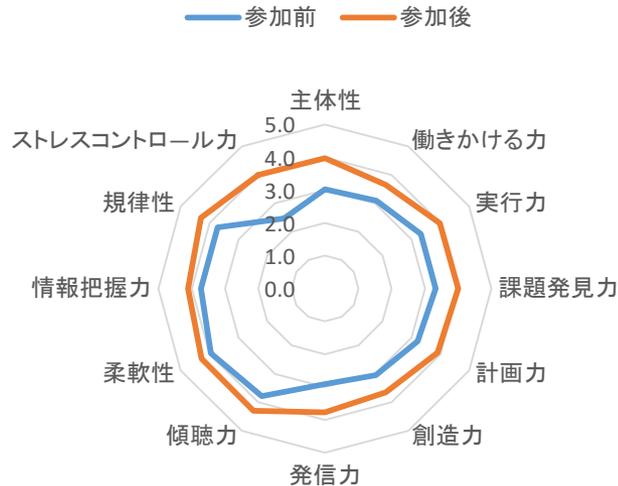
- 以前は大企業に就職することがすごいことであるという勝手なイメージを持っていた。しかし、社長から働くことの意義や会社とは自分を成長させる場であるという話を聞き、大企業で働くことだけが良いことなのではないと気付いたから。自分の会社に誇りを持っていて、とてもかっこよく感じた。
- 以前中小企業に持っていたイメージは人数が少ない、休みがない、給料が少ないなどマイナスなイメージが多かった。今は地域に貢献できる点や職場の社員同士の距離の近さなどプラスなイメージを持つようになった。
- 以前持っていたイメージは、社内の雰囲気は緊張感のある、張り詰めたような場所であった。参加後にイメージが、アットホームで温かい雰囲気に変化したから。

# 履修者アンケート結果 (2017年度履修者 n=43)

## 本授業の教育効果の検証

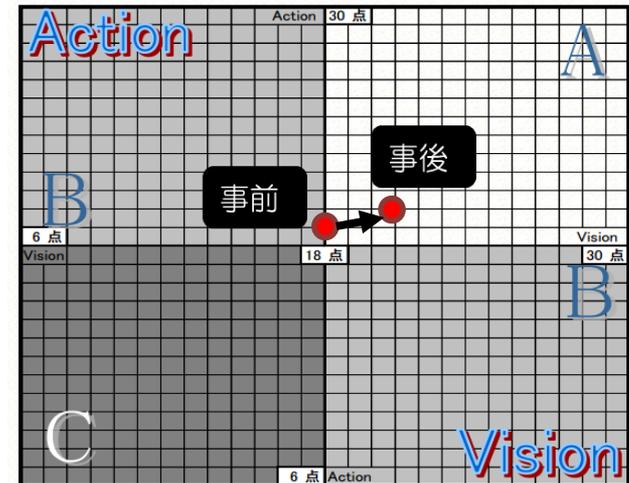
統計分析を行った結果、①「社会人基礎力」の12項目と②「キャリア意識の発達に関する効果測定テスト (CAVT)」のアクションとビジョン各項目において、インターンシップ参加前に比べ、参加後は有意に高まっていた。

①「社会人基礎力」のインターンシップ参加前後の変化



	主体性	働きかける力	実行力	課題発見力	計画力	創造力	発信力	傾聴力	柔軟性	情報把握力	規律性	ストレスコントロール力
参加前	3.0	3.1	3.3	3.3	3.2	3.0	2.9	3.8	4.0	3.7	3.7	2.5
参加後	4.0	3.7	4.0	4.0	3.9	3.7	3.8	4.3	4.3	4.1	4.3	4.0
伸長率	1.0	0.6	0.7	0.7	0.7	0.6	0.9	0.5	0.3	0.4	0.6	1.5

②「CAVT」のインターンシップ参加前後の変化



	ビジョン得点	アクション得点
参加前	18.4	20.9
参加後	19.1	21.5

## 受入企業アンケート結果 (n=19)

2016年に受入を実施した中小企業19社に、  
ウェブサイトからのアンケートを実施。  
全企業から回答を得た（有効回答率は100%）



受入企業名（敬称略）

株式会社東北消防設備、田宮印刷株式会社、株式会社サニックス、株式会社SRホーム、株式会社エム・エス・アイ、株式会社セロン東北、仙台ターミナルビル株式会社（メトロポリタン山形）、株式会社朝日測量設計事務所、株式会社曙印刷、株式会社カーサービス山形、有限会社長門屋、大場印刷株式会社、岡崎医療株式会社、株式会社タマツ、株式会社アサヒマーケティング、株式会社オネテック、山形県中小企業家同友会事務局、株式会社アイン企画、寒河江物流株式会社

業種	社数	割合 (%)
建設業	1	5.3
製造業	4	21.1
情報通信業	1	5.3
運輸業, 郵便業	2	10.5
卸売業, 小売業	3	15.8
学術研究, 専門・技術サービス業	1	5.3
宿泊業, 飲食サービス業	1	5.3
医療, 福祉	1	5.3
複合サービス事業	1	5.3
サービス業（他に分類されないもの）	4	21.1

従業員規模	社数	割合 (%)
5人以下	1	5.3
6～20人	3	15.8
21～50人	5	26.3
51人以上	10	52.6

回答者の役職	社数	割合 (%)
経営者	11	57.9
管理職	7	31.6
指導社員	2	10.5

## 受入企業アンケート結果 (n=19)

## Q.低学年からインターシップを実施に関する評価

低学年からインターシップを実施に関する評価	回答数	割合 (%)
大変意義がある	16	84.2
意義がある	2	10.5
どちらともいえない	1	5.3

早期インターン  
シップの意義

94.7%

※大変意義がある、意義がある の合計した割合

## Q.インターンシップ受入企業の満足度

インターンシップ受入企業の満足度	回答数	割合 (%)
大変満足している	3	15.8
満足している	13	68.4
どちらともいけない	1	5.3
あまり満足していない	2	10.5

受入企業の  
満足度

84.2%

※大変満足している、満足している の合計した割合

## 受入企業アンケート結果 (n=19)

## Q. インターンシップを受入れての感想（抜粋）

- 大学生が社内にいることで、社員は新鮮さを感じ取る機会となり、モチベーションアップにつながったと思う。また学生に業務内容を伝える際に、分かりやすく伝えようと努力し、現状の業務を再度確認することができるなど、教える立場の社員も学ぶ機会となった。
- 学生がインターンシップを通して、仕事に対する取り組みや人間関係づくりなど気付きを養ってもらおうと同時に、社員の業務内容の説明やヒアリング力、質問に対する回答等、社員教育の一環として捉えている。
- 受入れ準備や当日の学生のケアなど大変な分、色々なことを感じてくれた学生の成果発表を聞くことができると、達成感を得ることができた。
- 産学連携による人材育成が地域社会の発展につながると強く思っています。
- 中小企業の正しい認識と魅力を知る機会となる。また働くこと、生きることについて考え、主体者として自らの道を切り拓いていくきっかけとなることを願っている。上記二点が伝わるように取り組んでいるため、準備の時間は取られるが、全体で取組むことで職場の活性化を図ることができる。
- 活動を通じて自社の存在意義等を再認識できる。
- インターンシップは受益者たる学生もさることながら、指導する若手社員のスキルアップに繋がっている。また、インターンシップを通して多くの学生に就職や働く大切さを改めて知ってもらうことにより、彼らの確かなるブレのない就職活動に直結していくことにもなる。その面からは大変有意義なものであるものと捉える。ただ、インターンシップに参加する学生は、受入先の企業を事前にもっと研究し臨むべきです。ただ漠然と参加する学生も少なくはありません。目標意識を持ち目標を達成するべく主体的な行動を強く望みます。

# 受入企業アンケート結果 (n=19)

## Q.低学年インターシップの受入理由

インターンシップ受入理由（複数回答）	回答数	割合（%）
自社の認知度や理解度の向上／親近感の醸成	11	12.9
新卒の採用活動の一環／採用経路の一つ	5	5.9
大学との関係強化	10	11.8
社会貢献	12	14.1
「求める人材像」と「目指す人材像」の相互理解	5	5.9
指導役を務める社員の育成	11	12.9
職場の活性化	11	12.9
地域社会との連携強化	11	12.9
職場の人手不足を補う	0	0.0
学生ならではの発想力や行動力の活用	5	5.9
学生が持つ専門知識の活用	2	2.4
その他（具体的に教えてください）	2	2.4

特徴として、「人材育成」や「職場の活性化」など社員教育の一環として捉えている傾向がある。

※全国データ（リクルートキャリア、2017）では、「仕事を通じた自社および業界・仕事理解」が多く、次に「社会貢献」

## Q.低学年インターシップの受入課題や負担

インターンシップ受入にあたっての課題や負担（複数回答）	回答数	割合（%）
指導役を務める社員の負担	7	24.1
受け入れの準備（仕事の選定など）	11	37.9
リスク管理やリスク対応の徹底	1	3.4
学生の募集	0	0.0
大学との事前の手続きや、事後報告の負担	4	13.8
経費面の負担	0	0.0
その他（具体的に教えてください）	6	20.7

実習プログラムの企画・設計を含めた準備に負担を感じている。

※全国データ（リクルートキャリア、2017）では、「プログラムの企画・設計」が多く、次に「社内協力者の巻き込み」

## 受入企業アンケート結果 (n=19)

Q. インターンシップ受入による社内（職場）の変化（自由記述）

## 自由記述の分析から見えたインターンシップ導入の3つの効果

カテゴリー	コメントの抜粋
<b>社員の能力向上</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当した社員が自分で内容を企画し、受け身の姿勢ではなく、周りを巻き込む姿勢が出てきたと思います。</li> <li>・“人に伝えること”を体験することで、基本を再確認することができた。また、何もわからない人に噛み砕いてわかるように伝えるコミュニケーション力がアップした。など</li> </ul>
<b>振り返りの機会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い社員が学生に教えることによって自分の仕事内容を整理し、合理化につながっているように見える。</li> <li>・社会人の先輩として、仕事と自分自身の働きがいについて話してもらうことで自らを振り返る機会となり、また成長を共有できた。など</li> </ul>
<b>モチベーション向上</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立大学の学生を受け入れることに対し、それに恥じない会社にしようという気概が生まれている。</li> <li>・目的を共有して受け入れることで、一人ひとりが工夫し、職場が明るくなり、活気が湧く。など</li> </ul>

出所) 日本政策金融公庫総合研究所 (2017) 「地方圏の大学生の就職意識とインターンシップ」『調査月報10月号』より筆者が加筆修正

## 中小企業におけるインターンシップ導入の有効性

① 「大卒採用できる体制づくり」

大学生を理解するために定期的な接点を持つ

+

② 「自社の認知度や理解度の向上」

受入れを通して自社の魅力を高め、発信する

+

③ 「社員教育・職場の活性化」

社員の能力向上  
振り返りの機会  
モチベーション向上

# 【参考】教育効果の高いプログラム企画・設計のポイント

## ①組織の一員としての 受け入れる



お互いが「お客様扱いする（される）」  
環境を作らない

# インターンシッププログラム

## ②会話の機会を増やす



質問を積極的に受けるように  
したり、意識的に雑談の機会  
増やしたりする

## ③仕事の意味づけと フィードバック

作業前に仕事の意義を伝え、  
作業後にフィードバックする



# 【参考】本授業の内容が注目されています

INTERNSHIP

インターンシップ  
好事例集

-教育効果を高める工夫17選-



文部科学省  
MEXT  
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE AND SPORTS

**山形大学**

■授業科目名：フィールドワーク-山形の企業の魅力 (プレインターンシップ)

■単位数：2単位

■対象学部：全学部

■履修学年：1年～4年生 (主に1年生対象)

■実習期間：8月～9月の期間 (期間内で3日間のインターンシップ実習)

■実習先：山形県中小企業家同友会加盟企業

低学年向けインターンシップ  
中小企業向けインターンシップ

---

**取組の概要**

・本授業は、山形大学の基礎教育の授業科目で開講している、低学年(主に1年生)を対象とした短期インターンシップ(3日間)の授業である。また3年次以降に本格的なインターンシップ前のプレ体験(お試し版)と位置付けている。

・地域の中小企業に対する理解促進の機会を早期から提供するために、山形県内の中小企業(山形県中小企業家同友会加盟企業)と連携し取組んでいる。

※本授業の全体イメージは右記の通りである。




---

**取組の詳細**

**(実施の目的・ねらい)**

・本授業の目的は、就業観の醸成および学習意欲を早期から高め、知名度や企業規模などの基準だけで進路を決めることのないよう広い視野を養うことである。また到達目標は、インターンシップに参加するなかで、働くことの意味を考え、その上で今後の大学での学びを再考し、また中小企業の理解を深め、それらを言葉で説明できることとしている。

・本授業は、山形大学基礎教育の基本方針に則り、地域でのインターンシップ体験を通して自己理解を深め、社会を構成し運営する自立した人間として、人生をどう生きるべきか、より良く、より力強く生きようとする力である「人間力」を高めるものである。また、地域の社会人と協働するなかで、「自立した個人として社会における責任を果たす態度・志向性」を養成するものである。

**(具体的な実施内容・方法)**

**【事前学習】(4月～7月)**

昨年の履修者の体験談、ビジネスマナー講座、応募書類(履歴書等)の作成等を個人・グループワーク中心で行う。また中小企業の魅力や受け入れ側の期待について、受け入れ企業の社長から講演をいただく。また授業以外の時間を活用し、履修学生の目標を明確にするため個別面談を行う。

**【インターンシップ】(8月～9月)**

インターンシップ期間は3日間。主に社長からのレクチャー(座学)、営業同行(社長のかばん持ち等)や、業務補助(事務作業や接客等)を組み合わせた内容の実習を実施。





## インターンシップ実践ガイド

### 大学と企業の連携

日本インターンシップ学会東日本支部 監修  
新戸崎 根木良友 監訳

山形大学出版部

本連携授業の取組は、文科省による全国的なインターンシップの拡大・推進の参考になる好事例の1つとして取り上げられ全国の大学等に共有されている。また日本インターンシップ学会東日本支部 (監修)の書籍に「特色あるインターンシップの取り組み」として紹介されている。

